

# 茨木市の現況

令和 6 (2024) 年 5 月

茨木市

## 目 次

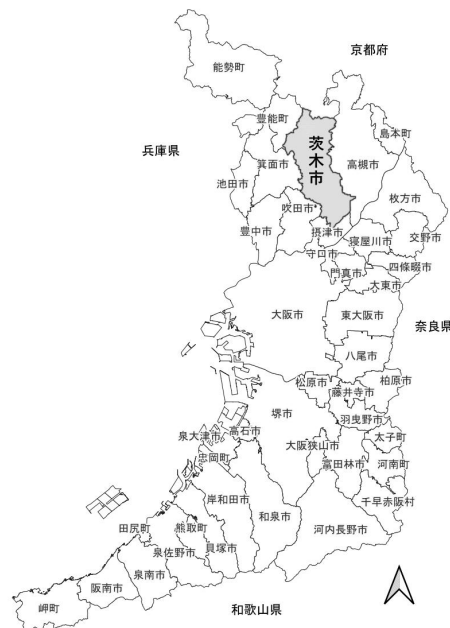
|   |              |        |
|---|--------------|--------|
| 1 | 茨木市の概要 ..... | 資料 2-1 |
| 2 | 市民意識 .....   | 資料 2-4 |
| 3 | 環境の現状 .....  | 資料 2-6 |

# 1 茨木市の概要

## (1) 地勢

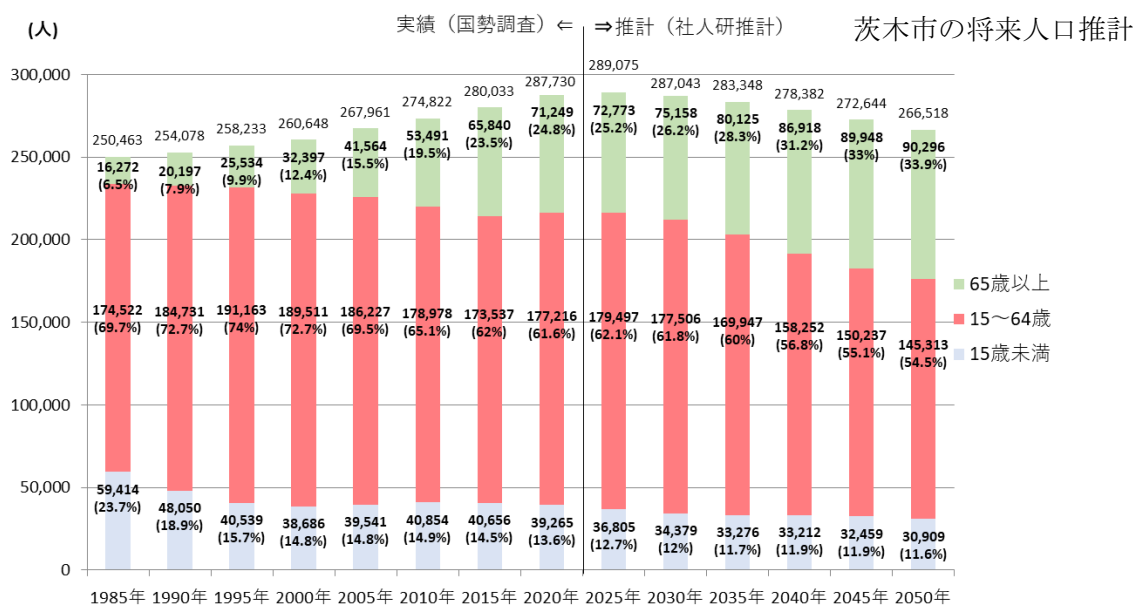
- ・ 茨木市は、淀川の北、大阪府北部に位置し、丹波高原の一部をなす老の坂山地の麓にあります。東西に短く南北に長い地形をしており、北半分は老の坂山地、南半分は大阪平野の一部をなす三島平野にあります。
- ・ 北は京都府亀岡市に、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能町に接しています。

茨木市の位置



## (2) 将来人口

- ・ 推計による茨木市の人口のピークは、令和7(2025)年で約28万9千人です。その後、少子化等の影響により人口は減少し続け、令和22(2040年)には27万8千人、令和32(2050)年には26万6千人まで減少することが見込まれます。また、令和2(2020)年から令和32(2050)年の間に、老年(65歳以上)人口割合は24.8%から33.9%に上昇し、生産年齢(15～64歳)人口割合は61.6%から54.5%に、年少(15歳未満)人口割合は13.6%から11.6%に低下する見込みです。年齢3区分別人口では、茨木市は15歳未満の割合が国や大阪府と比べて高く、65歳以上の割合が低く推移していますが、令和27(2045)年には概ね3人に1人が高齢者になることが見込まれ、人口構造の変化を注視する必要があります。



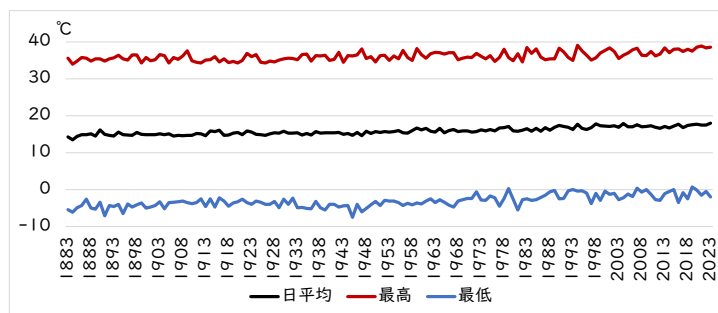
出典：国勢調査(2020年まで)

国立社会保障・人口問題研究所による推計(2025年以降)

### (3) 気象

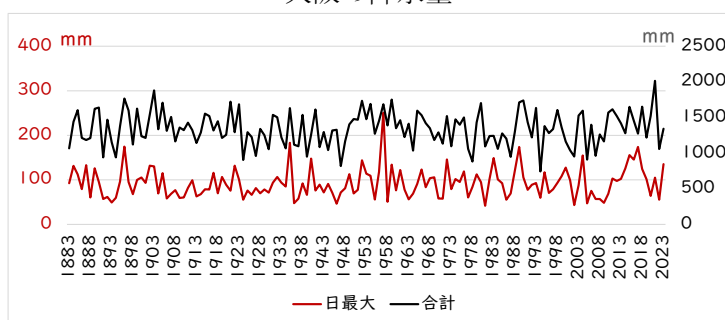
- ・ 茨木市の気候は穏やかな瀬戸内気候区に属し、日照が多く比較的温暖です。令和5（2023）年の平均気温は18.1℃であり、月別では1月の平均気温が最も低く、8月が最も高くなっています。気温は日平均、最高、最低とも近年上昇傾向にあります。降水量は、平年値に大きな増減傾向はないものの、年合計や日最大の年ごとの差が大きくなっており不安定な様相を呈しています。（大阪管区気象台, 気象庁ホームページ）
- ・ 平均気温は昭和48（1973）年から令和5（2023）年の約50年間で、約2℃上がっています。（大阪管区気象台）

大阪の気温



出典：大阪管区気象台, 気象庁ホームページ

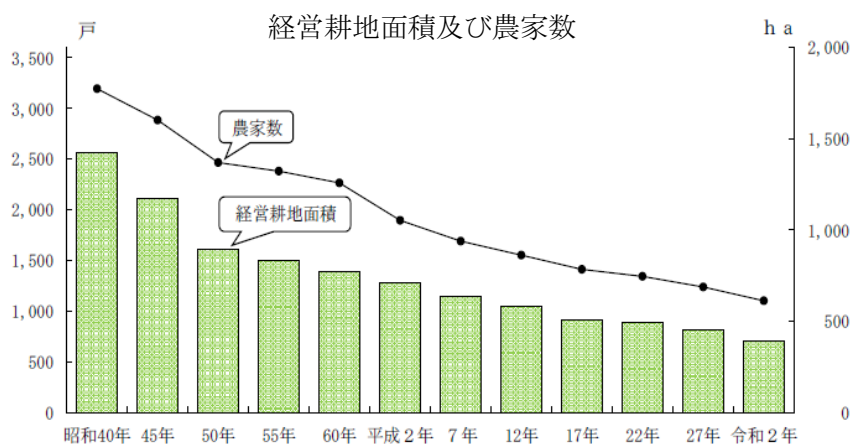
大阪の降水量



出典：大阪管区気象台, 気象庁ホームページ

### (4) 産業構造

- ・ 市内の製造業事業所\*数は平成8（1996）年をピーク（約450事業所）として減少を続け、令和3（2021）年には半数以下（約192事業所）となっています。 \* 従業者数4人以上の事業所
- ・ 農業については、この50年間で経営耕地面積及び農家数は減り続けています。

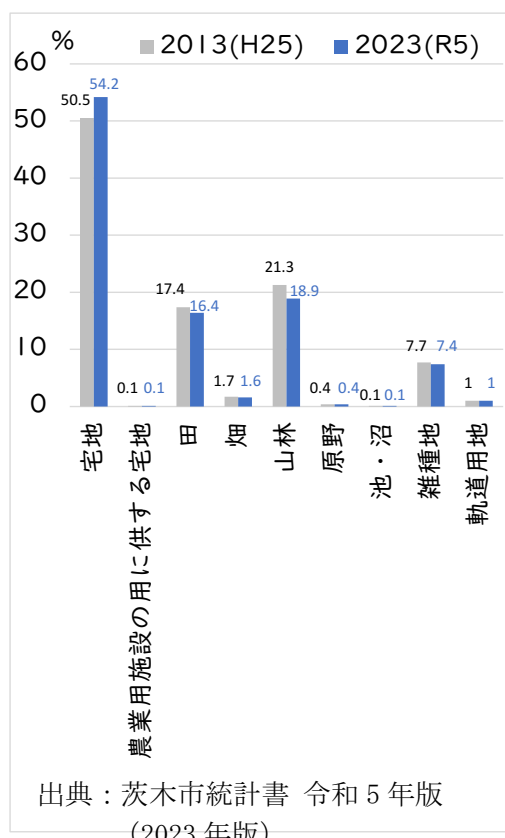


出典：茨木市統計書令和5年版（2023年版）

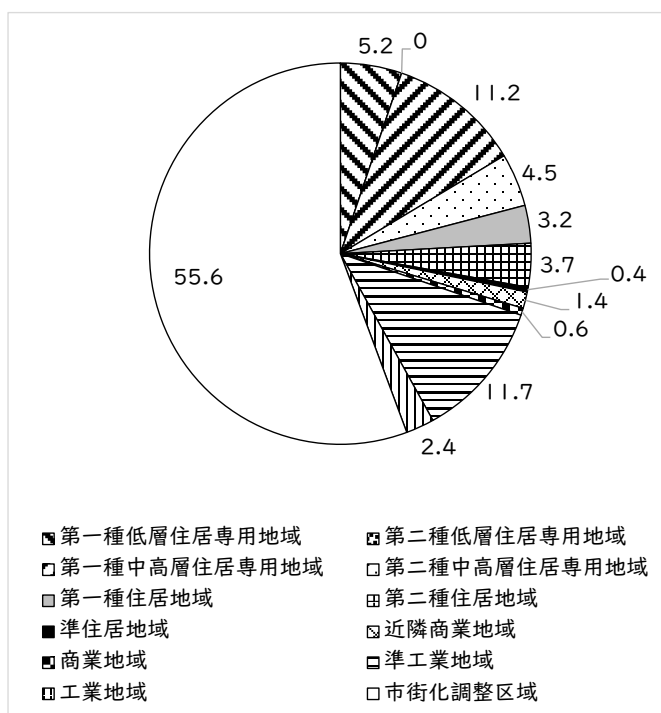
## （５）土地利用

- ・ 茨木市の土地利用状況は、森林と宅地の比率が高くなっています。地目別課税面積で過去10年の変化をみると、宅地が増加傾向にあり、田、畑、山林は減少傾向にあります。
- ・ 茨木市では、市街化調整区域の面積が55.6%、市街化区域の面積が44.4%となっており、市街化調整区域の占める割合が多い状況です。
- ・ 茨木市の都市計画マスタープランでは、“茨木市立地適正化計画（平成31（2019）年3月）”を踏まえ、無秩序な市街地の拡大を抑制する施策の展開方針を掲げています。

地目別課税面積割合



都市計画区域・用途地域の割合



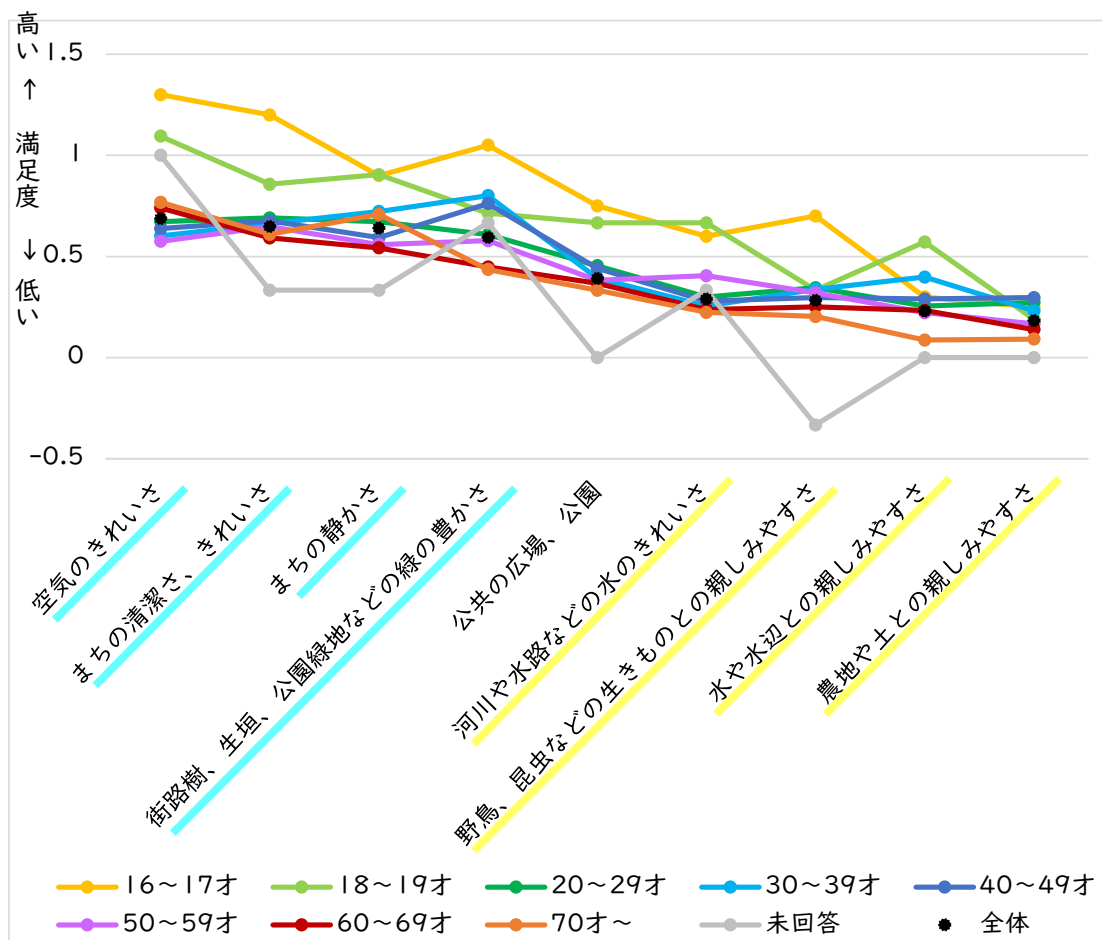
出典：茨木市統計書 令和5年版（2023年版）

## 2 市民意識（アンケート結果）

### （１）環境に関する満足度

- 令和 5(2023)年度に実施した「茨木市のまちづくりに関するアンケート」の結果によると、住まいの周辺環境に関する満足度では、9 項目とも平均値が 0 を上回っており、満足度は良い～普通であることが示された。比較的満足度が高かった項目は、“空気のきれいさ”、“まちの静かさ”、“まちの清潔さ、きれいさ”、“緑の豊かさ”であった（青色下線）。一方で、比較的満足度が低かったのは、“河川や水路などの水のきれいさ”、“水や水辺との親しみやすさ”、“農地や土との親しみやすさ”、“野鳥、昆虫などの生きものとの親しみやすさ”であった（黄色下線）。比較的満足度が高かった 4 項目は生活環境項目が多く、比較的満足度が低かったのは自然環境項目であった。本質問で満足度が低かった自然環境項目は茨木市の課題と考えられます。

住まいの周辺環境に関する満足度スコア（年齢別）

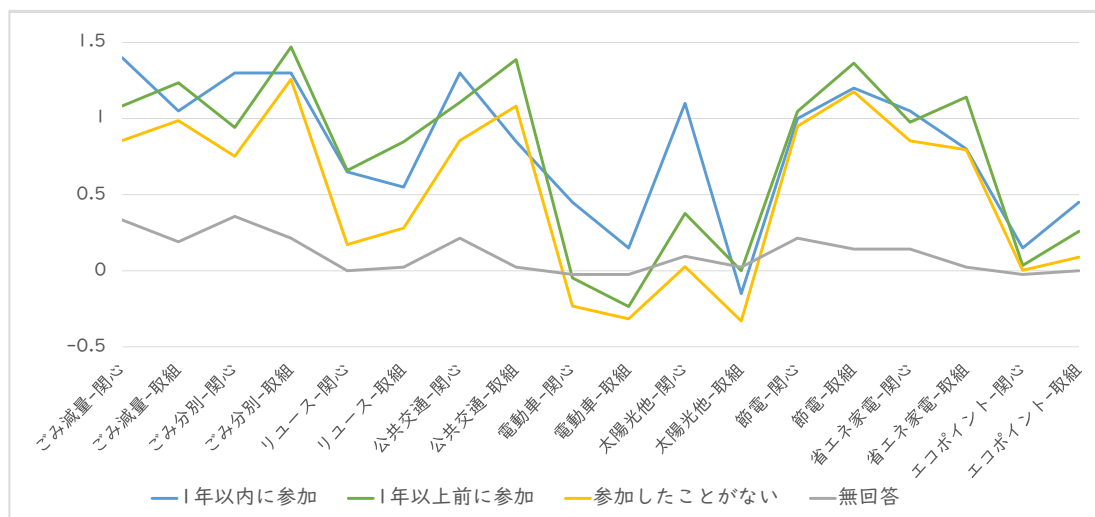


出典：資料 3 茨木市のまちづくりに関するアンケートの集計・分析結果

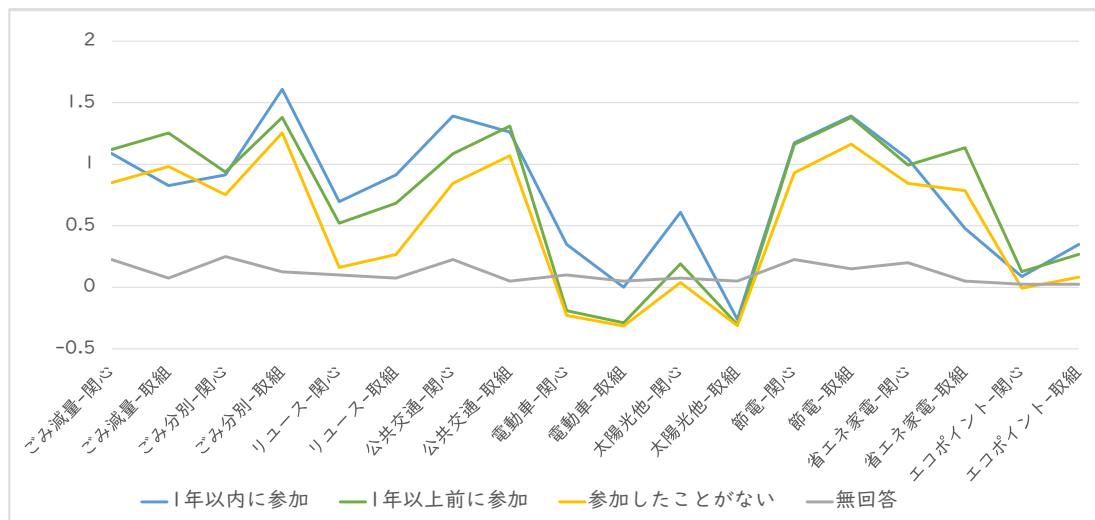
## (2) 体験学習の効果

- ・ 体験学習の参加経験と機構変動や資源循環の環境配慮行動の関連をみた結果、体験学習参加者は環境配慮に取り組む割合が高く、学習効果が見られました。
- ・ 一方で、体験学習への参加割合が低いことや、高齢者の参加割合が低いことは課題と考えられます。

環境配慮行動への取組状況と体験学習（気候変動）の関係



環境配慮行動への取組状況と体験学習（資源循環）の関係



出典：資料3 茨木市のまちづくりに関するアンケートの集計・分析結果

## (3) その他の課題

- ・ 生物多様性について、「森林やサンゴ礁の減少」など地球規模や広域での問題に対する認知度は高かった反面、「レッドリスト」、「里地里山の重要性」、「生態系サービス」など身近な内容の認知度が低かったことから、「生物多様性」の認知度向上が課題と考えられます。

### 3 環境の現状（現行の環境基本計画の達成状況）

現行の環境基本計画（平成27(2015)年3月策定）の達成状況を確認し、茨木市の現状と課題を以下に示します。

#### （基本施策1）いごちの良いい生活環境をたもつ

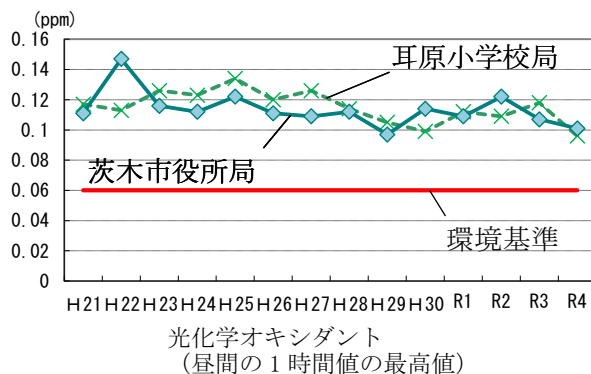
取組内容：大気・水環境などの保全

現状：大気の内、SO<sub>2</sub>、NO<sub>2</sub>、浮遊粒子状物質は環境基準を達成しています。

水環境（BOD）は環境基準を達成しています。

大気の内、光化学オキシダントは環境基準を達成していません。

課題：光化学オキシダントへの対策・対応については、国や大阪府による広域的な政策の実施や、これらの広域的な政策との連携が必要です。



取組内容：地域環境の監視

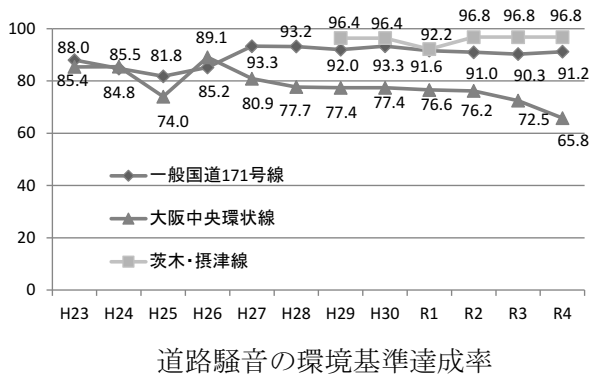
環境指標あり

現状：一般騒音の環境基準達成率は高水準を維持しています（97.2%）。

道路騒音の内、国道171号と茨木・摂津線の環境基準達成率は、高水準を維持しています。

道路騒音の環境基準達成率は、大阪中央環状線で低下しています。

課題：環境基準達成率の向上が課題です。

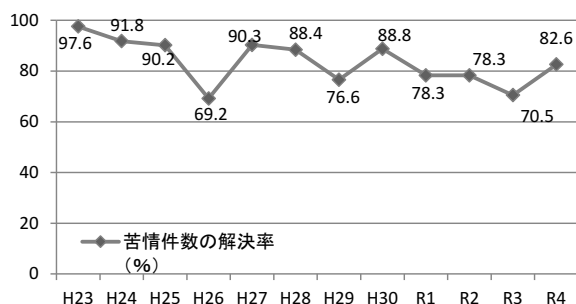


取組内容：良好な地域環境の確保

環境指標あり

現状：令和4(2022)年度の公害苦情の解決率は82.6%で、例年の水準を維持しています。

課題：今後も高水準の維持に努めます。



取組内容：公共下水道の整備

環境指標あり

現状：令和 4(2022)年度の公共下水道の人口普及率は 99.5%で、平成 25(2013)年度の 99.2%から向上しました。また、平成 25(2013)年度から合併処理浄化槽を 147 基整備しました。

課題：今後も公共下水道の人口普及率向上に努めるとともに、公設浄化槽の設置を促進する必要があります。

取組内容：下水道処理の高度化

現状：府の中央水みらいセンターで平成 11(1999)年、高槻水みらいセンターで平成 21(2009)年から一部の系列で高度処理が導入されています。

課題：公共用水域の水質改善や今後の人口減少に伴う汚濁負荷量の減少も踏まえ、適切な処理レベルの検討が必要とされています。

取組内容：合流式下水道の改善

現状：平成 30(2018)年度に大池ポンプ場の污水ポンプを 2 台増設し、遮集量を増加しました。

課題：特にありません。

取組内容：化学物質による環境リスクへの対応

環境指標あり

現状：令和 4(2022)年度の事業所における化学物質排出量は 50t で、平成 25(2013)年度の 81t から減少しています。

課題：事業者による化学物質の自主的な管理や削減への取組みが促進するよう引き続き周知していく必要があります。

取組内容：遺伝子組換え実験等による環境リスクへの対応

環境指標あり

現状：令和 4(2022)年度の環境保全協定の締結件数は 17 件で、平成 25(2013)年度の 15 件から漸増しています。

課題：今後も市内で遺伝子組換え施設を設置しようとする事業者と協定の締結に努めます。

取組内容：路上喫煙防止の推進

環境指標あり

現状：路上喫煙禁止地区を職員及び路上喫煙防止対策マナー推進員（委託）による巡回を実施し、喫煙者に対する指導や啓発活動に取り組んでいます。令和 4(2022)年度の路上喫煙率は 0.144%で、平成 25(2013)年度の 0.402%から減少しています。

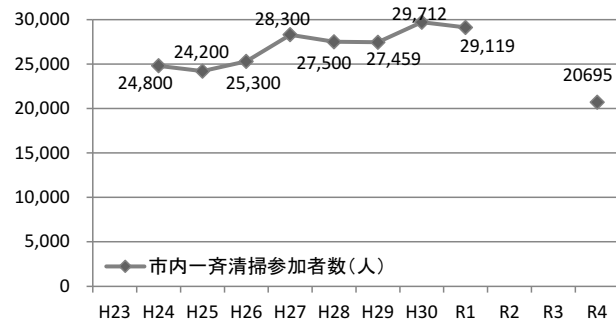
課題：今後も路上喫煙防止に関する啓発等の取組を継続していく必要があります。

取組内容：環境美化活動の推進

環境指標あり

現状：令和 4(2022)年度の市内一斉清掃参加者数は 20,695 人で、平成 25(2013)年度の 24,200 人から減少しました。

課題：令和 2(2020)年度のコロナ禍以降イベントを中止していたことや、コロナ禍後の再開が年度途中であったため参加者数が回復していないとみられます。今後は参加者数の増加に努めます。



取組内容：不法投棄の防止

環境指標あり

現状：令和 4(2022)年度の不法投棄処理件数は 471 件で、平成 25(2013)年度の 490 件と同水準です。

課題：不法投棄禁止の看板設置やパトロールにより、今後もさらなる減少に努める必要があります。

取組内容：ペットの適正飼養

環境指標あり

現状：飼い犬登録、狂犬病予防注射の接種率向上の取組、散歩時のリードの着用やフン尿の後始末等、ペットの飼養にかかるマナー啓発に取り組んでいます。令和 4(2022)年度の飼い猫等の避妊・去勢手術費補助件数は 330 件で、平成 25(2013)年度の 510 件（犬 224 件、猫 286 件）から減少していますが、その要因は、平成 27(2015)年 6 月に飼い犬に対する補助制度を廃止したためであり、猫に対する補助件数は増加しています。

課題：今後もペットの飼養にかかるマナー啓発等の取組をはじめ、飼い猫等の避妊・去勢手術費補助制度を継続する必要があります。

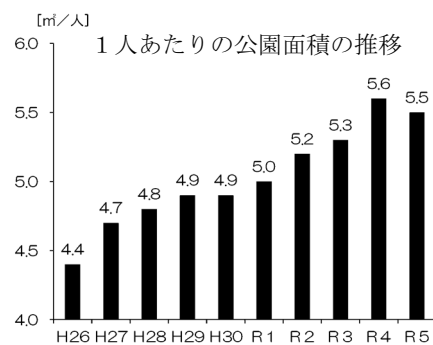
## （基本施策 2）バランスのとれた自然環境をつくる

取組内容：身近なみどりの保全と活用

環境指標あり

現状：南目垣緑地等の供用開始に伴い、令和 4(2022)年度の公園・緑地面積は 157.57ha で、平成 25(2013)年度の 123.38ha から毎年漸増していますが、人口増により 1 人あたりの公園面積は令和 5(2023)年度に減少しました。

課題：今後もさらなる増加に努めます。1 人あたりの公園面積は、人口の推移を踏まえて注視します。また、「茨木市のまちづくりに関するアンケート」の結果では、「農地や土との親しみやすさ」、「水や水辺との親しみやすさ」、「野鳥、昆虫などの生きものとの親しみやすさ」の満足度が低かったほか、特に街の中心部や周辺部で低かったため、内容については検討が必要と考えます。

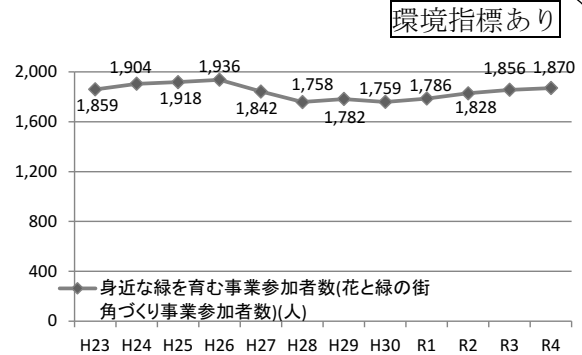


出典：茨木市統計書

取組内容：身近な緑を育む

現状：花と緑の街角づくり推進事業参加者数は、令和 4(2022)年度が 1,870 名で、平成 25(2013)年度の 1,918 名からわずかに減少しています。また、参加者が高齢化しています。

課題：今後もさらなる増加や年齢層の拡大に努める必要があります。



取組内容：ヒートアイランド対策としての緑化の推進

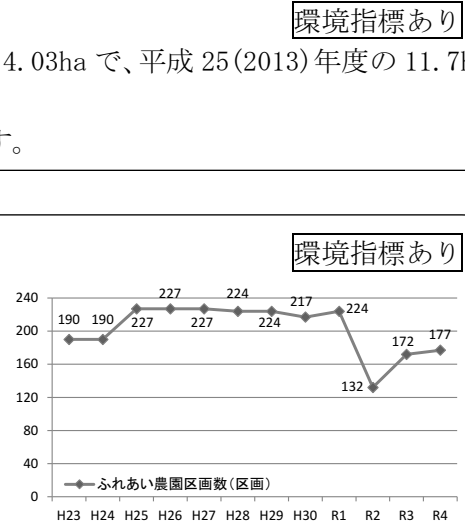
現状：ヒートアイランド対策として、「みどりのカーテンの推進」や「庁舎の屋上緑化」に取り組んでいます。

課題：緑の基本計画、都市計画マスタープラン、景観計画との内容の整合が必要です。

取組内容：環境にやさしい農業の推進

現状：エコ農産物栽培面積は、令和 4(2022)年度が 14.03ha で、平成 25(2013)年度の 11.7ha から増加しています。

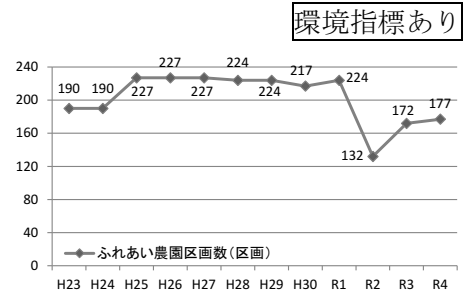
課題：今後もさらなる増加に努める必要があります。



取組内容：農地・里山の活用

現状：ふれあい農園は、令和 4(2022)年度が 177 区画のすべてに申し込みがありました。

課題：引き続き利用率の維持に努める必要があります。



取組内容：豊かな自然資源の活用

現状：森林サポーター養成講座参加者数は、令和 4(2022)年度が 25 名（定員 25 名）で、平成 25(2013)年度の 13 名から増加しています。

課題：今後も森林サポーターの育成が必要です。



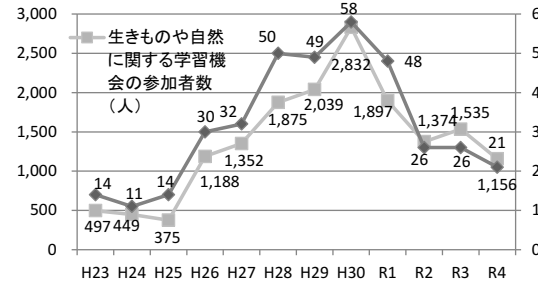
取組内容：みどりのネットワークの創出

現状・課題：緑の基本計画、都市計画マスタープラン、景観計画との内容の整合が必要です。

取組内容：生きものや自然との触れ合いの推進

環境指標あり

現状：「生きものや自然に関する学習機会の提供回数・参加者数」は、令和4(2022)年度が21回・1,156名で、平成25(2013)年度の14回・375名から増加しています。ただし、コロナ禍前と比較すると大きく減少しています。また、「茨木市のまちづくりに関するアンケート」の結果では、自然保護や環境保全活動への参加割合が依然低いこと、座学より体験学習型の参加割合が高い（人気がある）こと、30才以上の参加割合が低いことが明らかになっています。



課題：今後もさらなる機会の創出や多様な年齢層への働きかけが必要です。

取組内容：外来生物への対応

現状：特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアを捕獲する箱罠を市民の要望に応じて貸し出しています。

課題：引き続き対応が必要です。

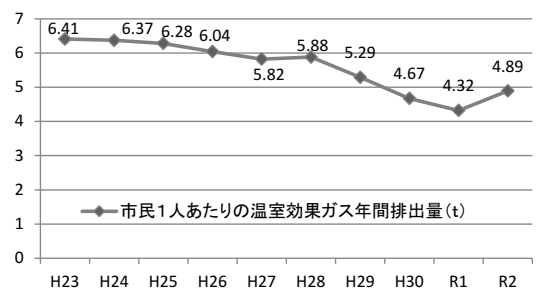
### （基本施策3）ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす

取組内容：省エネライフスタイルの推進

環境指標あり

現状：市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量は、令和4(2022)年度が4.9tで平成25(2013)年度の6.28tから減少しました。ただし、令和元(2019)年度からは増加しましたが、これはコロナ禍における在宅時間の増加が原因と考えられます。

課題：コロナ禍以降の経過を観察しつつ、減少に努めます。

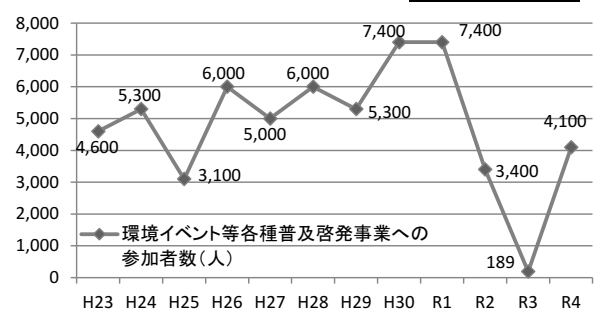


取組内容：省エネライフスタイルの推進

環境指標あり

現状：環境イベント等各種普及啓発事業への参加者数は、令和4(2022)年度が4,100名で、平成25(2013)年度の3,100名から増加しました。ただし、コロナ禍前と比較すると大きく減少しています。コロナ禍における在宅時間の増加や、環境フェアの開催規模の縮小が原因と考えられます。

課題：イベント内容の充実を図り、増加に努めます。

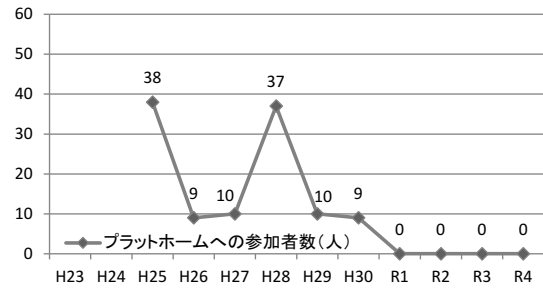


取組内容：情報交換の場の充実

現状：プラットホームへの参加者数は、令和 4(2022)年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、プラットホームを開催しませんでした。

課題：プラットホームの運営方針について検討し、充実を図ります。

環境指標あり

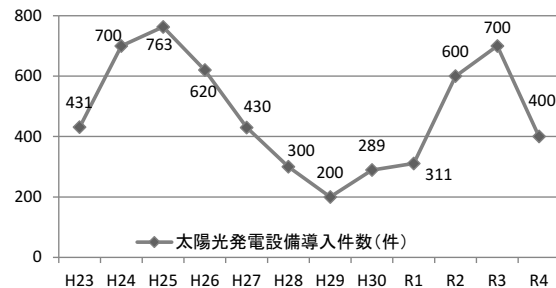


取組内容：再生可能エネルギー等の推進

現状：太陽光発電設備導入件数は、令和 4(2022)年度は 400 件で、平成 25(2013)年度の 763 件から減少しました。これは、コロナ禍における機械の部品不足などが要因と考えられます。

課題：コロナ禍以降の経過を観察しつつ、増加に努めます。

環境指標あり



取組内容：森林資源の有効活用

現状：木質ペレット等の製造工場への、間伐材の搬入量は、平成 29(2017)年度以降、搬入先の辞退申し入れにより把握出来る数値がありません。平成 30(2018)年度からバイオエタノールプラントへの廃木材搬入をしていないため、把握できる数値がありません。搬入されていた廃木材は、ごみ処理の燃料となる石炭コークスとともに燃焼の副資材として活用されています。

課題：特にありません。

環境指標あり

取組内容：健全な水循環の確保

現状：雨水貯留タンク設置者への補助制度を設け、令和 4(2022)年度は 16 件の実績がありました。

課題：設置基数がほぼ横ばい傾向であり、今後も普及・啓発に努めます。

取組内容：スマートコミュニティの導入

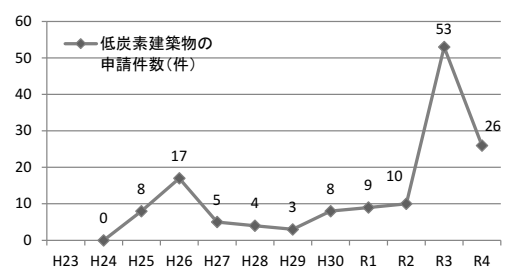
現状・課題：総合計画、都市計画マスタープラン、地球温暖化対策実行計画との整合を図る必要があります。

取組内容：低炭素建築物の普及・啓発

現状：低炭素建築物の申請件数は、令和 4(2022)年度が 26 件でした。

課題：今後もさらなる普及・啓発に努めます。

環境指標あり

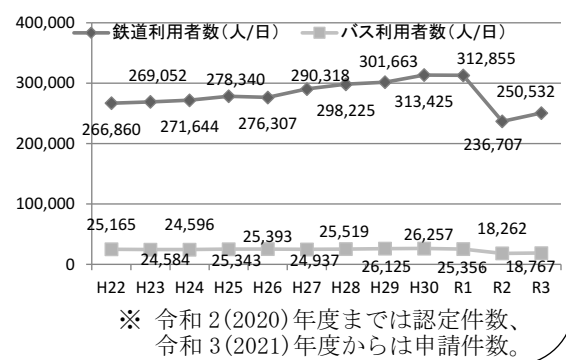


取組内容：公共交通機関等の利用促進

現状：鉄道利用者数・バス利用者数は漸増傾向にあったが、令和2(2020)年度のコロナ禍以降に減少した。

課題：コロナ禍以降の経過を観察しつつ、増加に努めます。

環境指標あり

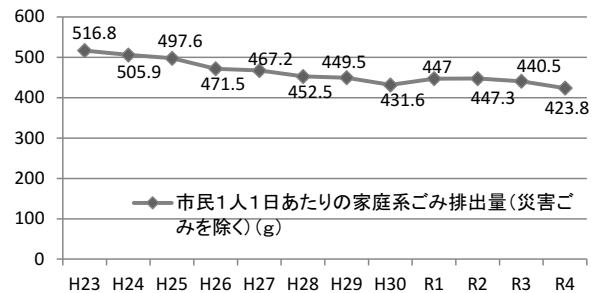


#### (基本施策4) きちんと分別で資源の循環をすすめる

取組内容：家庭系ごみの減量化推進

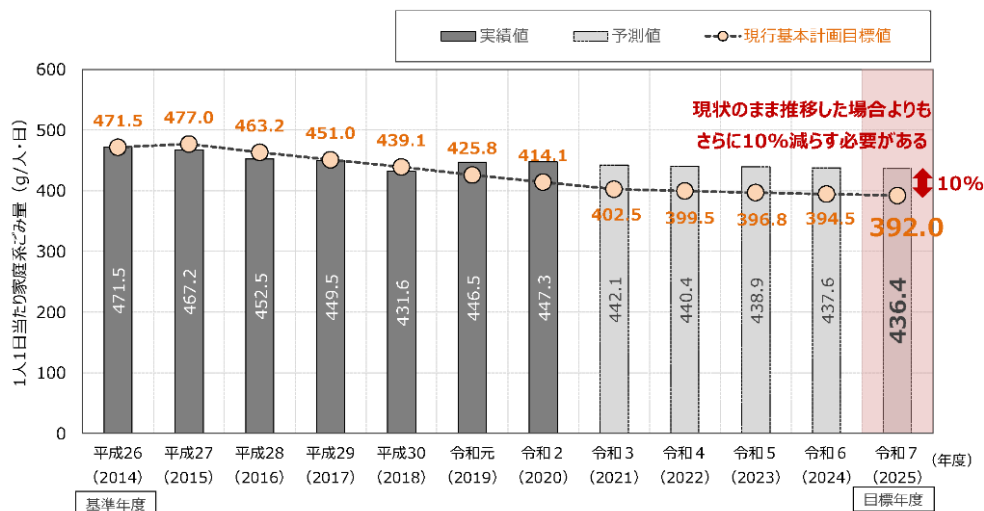
現状：市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量は、令和4(2022)年度が423.8gで平成26(2014)年度の471.5gから10.1%減少しています。令和元(2019)年度は前年度の災害に伴う影響、令和2(2020)年度からはコロナ禍での外出自粛等の影響により増加していますが、令和3(2021)年度から再び減少に転じています。現行基本計画の目標値392.0gを約31.8g上回っており、目標値達成にはさらなる削減が必要です。

環境指標あり



課題：以下に示す国内外の状況を踏まえ、食品ロス及びプラスチックごみの削減を課題としてごみの削減に努めます。

- ・SDGsのターゲットに食品ロスの減少が掲げられ、我が国においても「食品ロス削減推進法」が制定されるなど、食品ロス削減への機運が高まっています。
- ・海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃物輸入規制強化などへの対応を契機として、国内におけるプラスチックごみの削減と資源循環を一層促進する重要性が高まっています。



※ 平成27年度(2015年度)と令和元年度(2019年度)はうるう年のため、1年を366日として計算  
 ※ 平成30年度(2018年度)のごみ量は災害廃棄物量を除く

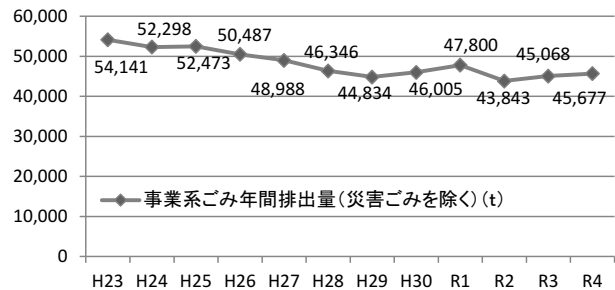
出典：茨木市一般廃棄物処理基本計画、令和4(2022)年3月

1人1日当たり家庭系ごみ量(資源物を除く)の実績値及び予測値と現行計画目標値の比較

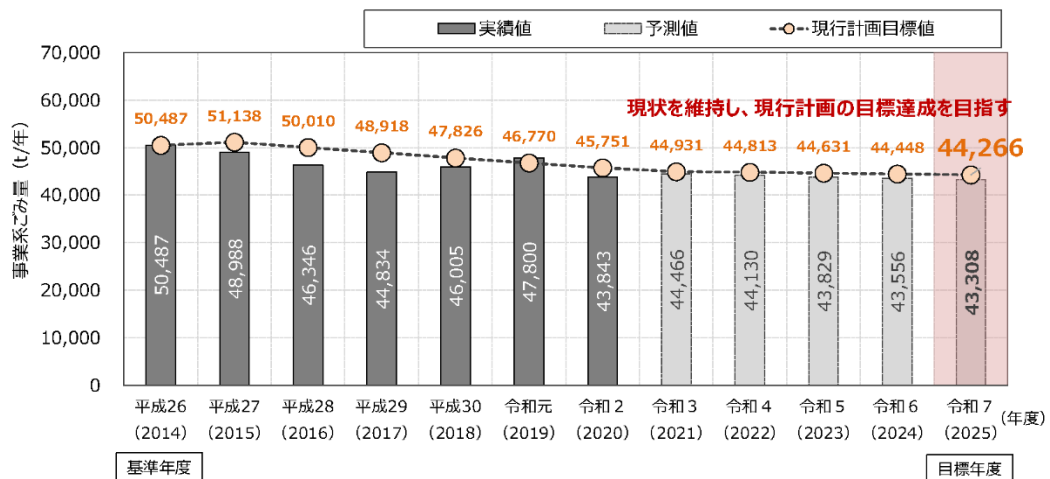
取組内容：事業系ごみの減量化推進

環境指標あり

状：事業系ごみ年間排出量は、令和 4(2022)年度が 45,677t で平成 26(2014)年度の 50,487t から 9.5%減少しています。ただし、平成 30(2018)年度と令和元(2019)年度は、平成 30(2018)年度に発生した災害（大阪府北部を震源とする地震、豪雨、台風）に伴うごみにより排出量が増加したものと推測されます。また、令和 2（2020）年度はコロナ禍に伴う外出自粛や飲食店への休業要請等により、事業系ごみ排出量は大幅に減少し、現行一般廃棄物処理基本計画目標値の 44,266t を約 1,411t 下回っています。しかし、令和 3(2021)年度からはコロナ禍からの景気回復により増加に転じています。



課題：多量排出事業者に対して行っている訪問指導や情報提供を中小規模事業者に対しても有効となる手法を検討し、さらなる減量に努めます。



出典：茨木市一般廃棄物処理基本計画, 令和 4(2022)年 3 月  
事業系ごみ量の実績値及び予測値と現行計画目標値の比較

取組内容：資源物分別の推進

現状：環境衛生センターにおける搬入物検査（事業系ごみの展開検査）を実施し、不適正廃棄物の搬入を防止するための方策を検討しています。また、ごみ出しルール周知・啓発を看板、アプリ、ガイドブック、リーフレットなどにより行っているほか、多言語化にも取り組んでいます。

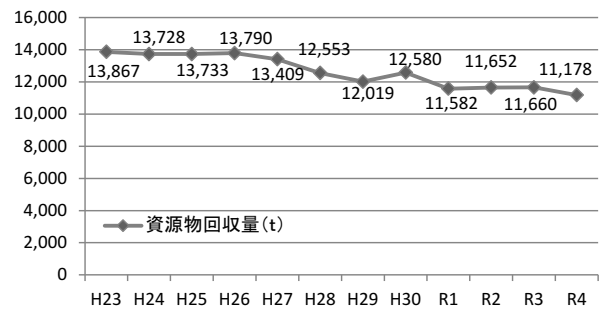
課題：現在分別していない資源物について、費用対効果を踏まえた新たな分別・再資源化の可能性について検討します。

取組内容：家庭系ごみの再資源化の推進

現状：資源物回収量は、令和 4(2022)年度が 11,178t で平成 26(2014)年度の 13,790t から減少しています。資源物回収量においては、分別の徹底等により回収量を増やすことは重要ですが、近年ペットボトル等の軽量化や、電子書籍等の利用の増加、新聞・雑誌の購読者の減少等、再資源化可能なものの消費量全体が今後も減少していくものと考えられます。

課題：資源物回収量が指標として適当か再検討します。

環境指標あり

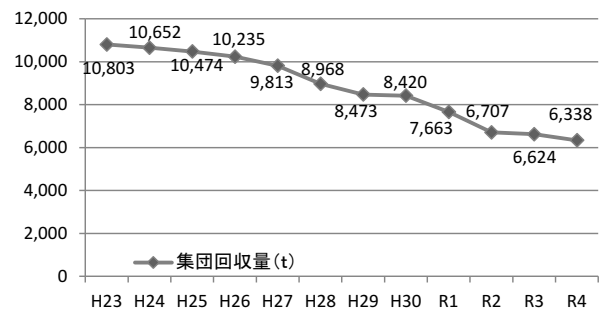


取組内容：家庭系ごみの再資源化の推進

現状：集団回収量は、令和 4(2022)年度が 6,338t で平成 26(2014)年度の 10,235t から減少しています。集団回収量減少の原因は、集団回収団体数の減少ではなく、集団回収によって回収される内容が社会情勢で大きく変化していることが考えられます。また、新聞・雑誌以外にも、ペットボトルや缶等の軽量化は進んでおり、資源物を含めたごみ量を全体的に減らしていくという社会の流れ、茨木市の回収状況等を総合的に考えると、資源物回収量を増加させるという目標値は現実的ではありません。

課題：集団回収量が指標として適当か再検討します。

環境指標あり



取組内容：事業系ごみの再資源化の推進

現状：再資源化の方法やルート情報の提供として、事業所に対する研修会を実施しています。食品廃棄物の再資源化推進のため、フードシェアリングサービス事業者と連携した情報提供等を行っています。

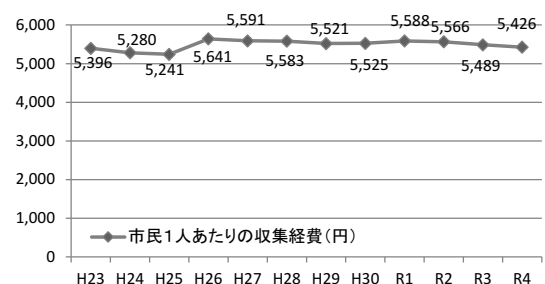
課題：事業者に対して効果的な周知・啓発方法を検討します。

取組内容：効果的なごみ処理の推進

現状：市民 1 人あたりの収集経費は、令和 4(2022)年度は 5,426 円で、横ばいが続いています。ごみ処理に係る将来的な視点及び経費削減の観点から、施設の整備（長寿命化を含む。）、広域処理を計画しました。令和 5(2023)年 4 月から茨木市環境衛生センターで摂津市の廃棄物も処理しています。ごみ処理施設の集約により、効率的な運用・処理が実現しました。

課題：今後もさらなる費用低減に努めます。

環境指標あり



取組内容：ごみ処理施設の適正な運用

現状：市民1人あたりの処分経費は、令和4(2022)年度は8,689円で、平成25(2013)年度の6,755円から増加しています。収集人口・収集量の減少と、主に光熱水費の増加による経費増加により処分経費が上昇しました。

課題：今後もさらなる費用低減に努めます。

環境指標あり

